

放送大学を利用して

# 大学改革支援・学位授与機構で 学士の学位取得をめざす方へ

2025年度



# 「学士」の取得をめざす方へ

学位授与制度をご存知ですか？

学位授与制度は、短期大学・高等専門学校を卒業された方や専修学校専門課程を修了された方などが、放送大学などで一定の学修を積み上げた場合、大学改革支援・学位授与機構の行う審査に合格することによって「学士」の学位取得への途を開いたものです。

この制度を利用して取得できる「学士」の種類は、看護学をはじめ非常に多岐にわたっており、多くの方に様々な可能性が開かれています。

「学士」の申請をするには、「基礎資格を有する者」の条件や、「積み上げ単位（基礎資格を有する者に該当した後に新たに修得すべき単位）」の修得、「学修成果」の作成等、理解しておかなければならないことがいくつかあります。どのような科目を、どれだけ修得する必要があるのかなどは、申請者が自身で判断することになります。

そこで、放送大学では、大学改革支援・学位授与機構の学位授与制度を利用して学士の取得を目指す方を応援するために、同機構の協力を得て、この冊子を作成しました。

放送大学を卒業することによって学士（教養）を取得することができますが、大学改革支援・学位授与機構の学位授与制度で「学士」の取得を目指すにあたっては、放送大学で開講している多くの科目を利用することができます。

これから初めて「学士」を取得しようとする方から、もう既に取得している「学士」とは別の「学士」を目指そうとする方まで、「学士」に興味をお持ちの皆さんにお役立ていただければ幸いです。

※ 放送大学と大学改革支援・学位授与機構は、「生涯学習社会における高等教育の推進」という共通の目的の下、大学教育活動と学位授与事業で相互に協力していくため、協定を締結しております。

## 目 次

学士の学位を取得するには.....	2
放送大学の学修について.....	3
対応科目一覧.....	4
Q&A .....	16

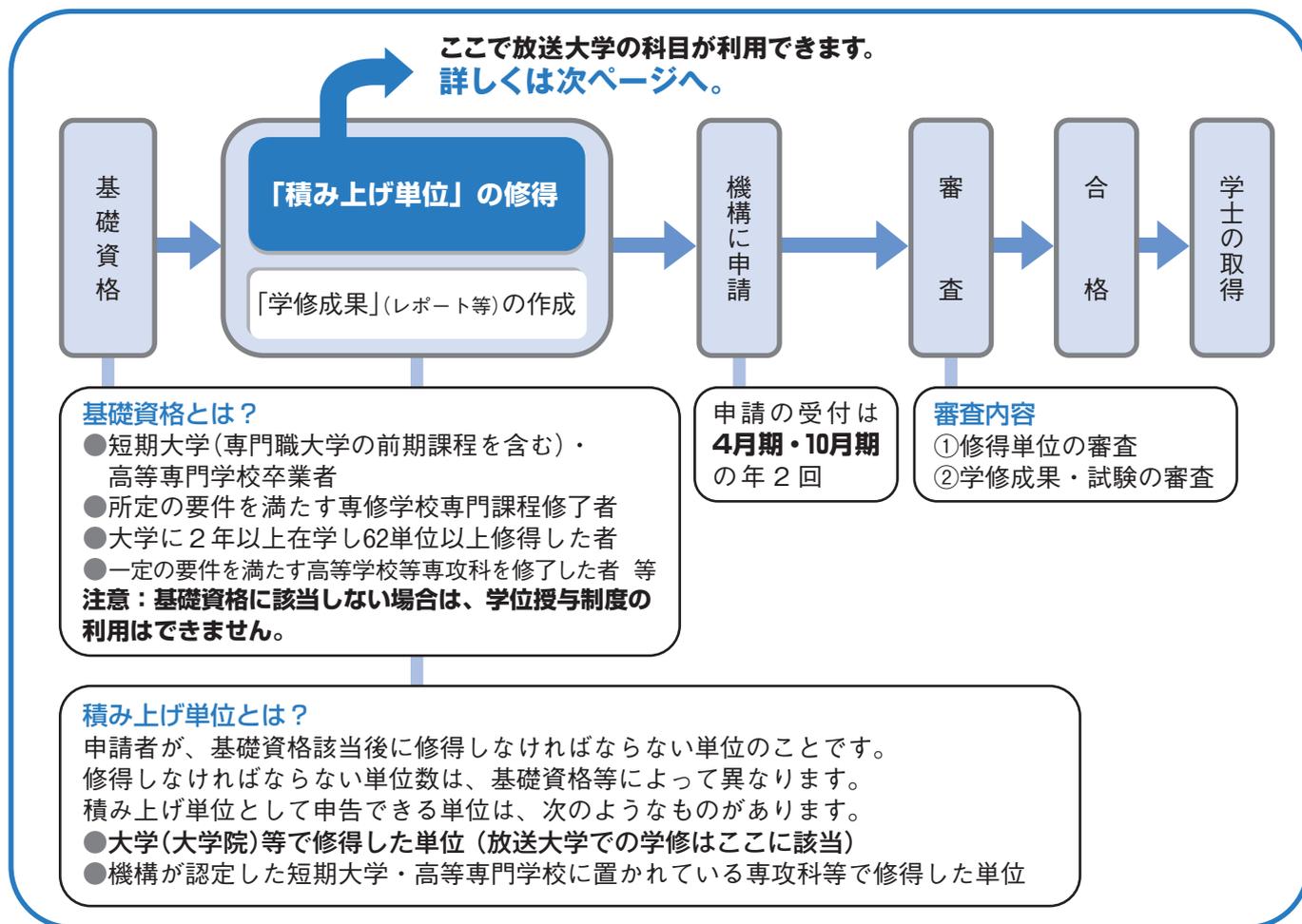
# 学士の学位を 取得するには

放送大学で学修を始める前に、大学改革支援・学位授与機構（以下、この冊子では「機構」と書きます。）が行っている学位授与制度をしっかりと把握することが大切です。概要は、以下のとおりです。詳しくは機構が発行している「新しい学士への途」※を必ずご確認ください。

## 大学改革支援・学位授与機構について

大学卒業と同等以上の学力があると認められたものに、学位（学士）を授与することを業務の一つとしている機関です。

## 学士の学位取得までの流れ



## 学位授与制度に関するお問い合わせ先

独立行政法人

**大学改革支援・学位授与機構 管理部学位審査課**

〒187-8587 東京都小平市学園西町1-29-1

**☎042-307-1550** [問い合わせ専用]

9:00~12:00 13:00~17:00(土・日曜、祝日、年末年始を除く)

※学位取得のための履修指導は行っていません。

**ウェブサイト** <https://www.niad.ac.jp/>

※「新しい学士への途」の請求については、Q & AのQ16(P.18)をご覧ください。

なお、「新しい学士への途」は機構ウェブサイトから閲覧できます。

(URL [https://www.niad.ac.jp/n\\_gakui/application/shinseishiryu.html](https://www.niad.ac.jp/n_gakui/application/shinseishiryu.html))

# 放送大学の 学修について

放送大学で修得した単位は、機構に申請する際に「積み上げ単位」として利用できます。

BS放送・インターネットを利用した授業を自分のペースで学ぶことができます。科目数は約300。あなたに必要な科目もきっとあるはずです。

## 出願から単位修得までの流れ

### 放送大学に入学する前に確認

自分の申請区分、積み上げ単位数を把握していますか？  
どの分野の科目を何単位修得すべきか分かりますか？

### 分からなかったらこれで確認！

「新しい学士への途」  
(機構発行)

### 放送大学で履修する科目を選択

約300ある科目の中から履修する科目を決定します。  
1学期間に履修する科目数は、自分の学習ペースを考え、無理のない程度にしましょう。

### 科目の内容はこれで確認！

「授業科目案内」  
講義内容（シラバス）※

### ？ どの科目を履修すればいいですか？

申請に利用する科目は自分で選択します。機構が設けている61の専攻の区分のうち、16の専攻の区分については「対応科目一覧」を作成していますので、参考にしてください。また、Q&Aも合わせてご確認ください。

→「対応科目一覧」(P.4～)、Q&A (P.16～)

(注)機構では、学位取得のための履修相談には応じていませんので、ご了承ください。→Q&AのQ4 (P.16)、Q12 (P.17)

### 学生種と履修科目を選択

●修得すべき単位数や生活スタイルに合わせて学生の種類を選べます。

学生種	在学期間	入学科	授業料 1学期(6か月間)			
			放送授業	1科目	(2単位)	12,000円 (教材費込み)
科目履修生	半年間 (1学期間)	7,000円	面接授業	1科目	(1単位)	6,000円 (教材費等別)
選科履修生	1年間 (2学期間)	9,000円	オンライン授業及び ライブWeb授業	1科目	(1単位) (2単位)	6,000円 12,000円 (教材は、インターネットで提供)
全科履修生※	最長10年間	24,000円				

※ 全科履修生在学中は機構への申請はできません。(本学卒業後、または退学後に申請が可能です。)

(注) 編入学する場合は、入学科に加え、既修得単位認定審査等手数料(10,000円)が必要です。

### 出 願

1学期11月下旬～3月中旬  
2学期6月中旬～9月中旬

出願期間等の詳細は、以下のウェブサイト及び最新の学生募集要項をご確認ください。

<https://www.ouj.ac.jp/admission/gakubu/>

### 入 学

1学期4/1  
2学期10/1

### 学 習

(授業期間) 1学期4月上旬～7月中旬  
2学期10月上旬～1月中旬

放送授業・オンライン授業など、授業形態により学習と単位修得方法が異なります。授業形態ごとの詳細は、以下のウェブサイトをご確認ください。

<https://www.ouj.ac.jp/reasons-to-choose-us/anytime-anyone-can-learn-freely/>

### 単 位 修 得

(成績通知) 1学期8月下旬  
2学期2月下旬

成績・単位修得証明書は、学習センターで発行します。証明書発行の詳細は、以下のウェブサイトをご確認ください。

<https://www.ouj.ac.jp/about/certificate/>

### BS放送

テレビ、ラジオで視聴できます。

### インターネット

開講期間中は原則すべての放送授業をインターネット配信します。科目名や視聴に必要な環境は、放送大学ウェブサイトでご確認ください。

### 学習センター

全国の学習センター（サテライトスペース）では、放送授業を視聴できます。

### オンライン授業

インターネット上で提供される講義・設問解答による授業を行います。

※講義内容（シラバス）は放送大学のウェブサイト (<https://www.ouj.ac.jp>) からご覧になれます。

# 対応科目一覽

この表に記載されていない科目（面接授業・ライブ Web 授業を含む）でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。なお、各区分の必要単位数は、「新しい学士への途」（機構発行）をご確認ください。

## 1 「文学」（心理学）

「専門・関連科目」の区分		2025年度対応科目
専門科目 (A群)	○心理学に関する基礎的・概論的な科目	教育・学校心理学(20)、心理学研究法(20)、ユーザ調査法(20)、心理学統計法(21)、心理学概論(24)、心理と教育へのいざない(24)、データの分析と知識発見(24)
	○知覚・学習心理学に関する科目	錯覚の科学(20)、神経・生理心理学(22)、知覚・認知心理学(23)、より良い思考の技法(23)、学習・言語心理学(25)
	○教育・発達心理学に関する科目	発達心理学概論(17)
	○人格・臨床心理学に関する科目	乳幼児・児童の心理臨床(17)、思春期・青年期の心理臨床(19)、認知行動療法(20)、中高年の心理臨床(20)、臨床心理学概論(20)、司法・犯罪心理学(20)、感情・人格心理学(21)、心理カウンセリング序説(21)、心理臨床における法・倫理・制度(21)、精神分析とユング心理学(23)、今日のメンタルヘルス(23)
	○社会・集団心理学に関する科目	社会・集団・家族心理学(20)、産業・組織心理学(20)、進化心理学(23)
(B群)	○心理学に関する実験・実習科目	
関連科目	◇情報科学に関する科目	メディアと知的財産(16)、情報ネットワーク(18)、コンピュータとソフトウェア(18)、統計学(19)、情報理論とデジタル表現(19)、情報技術が拓く人間理解(20)、身近なネットワークサービス(20)、アルゴリズムとプログラミング(20)、AIシステムと人・社会との関係(20)、問題解決の数理(21)、情報学へのとびら(22)、コンピュータグラフィックス(22)、デジタル情報の処理と認識(22)、情報セキュリティ概論(22)、日常生活のデジタルメディア(22)、教育のためのICT活用(22)、データサイエンス・リテラシ基礎(22)、データサイエンス・リテラシ導入(22)、データサイエンス・リテラシ心得(22)、データベース(23)、情報セキュリティの現状と展望(23)、情報セキュリティの理論と基盤(23)、ヒューマンインタフェース(23)、続・C言語基礎演習(23)、記号論理学(24)、プログラミング入門Python(24)、身近な統計(24)、社会統計学入門(24)、データ構造の基礎(24)、コンピュータ通信概論(24)、画像処理(24)、生活を支えるコンピュータ技術(25)、初歩からの情報科学(25)、Webのしくみと応用(25)、映像コンテンツの制作技術(25)、遠隔学習のためのパソコン活用(25)、人間・環境情報とDX(25)、表計算プログラミングの活用(25)、ゲーム理論入門(25)
	◇比較文化に関する科目	総合人類学としてのヒト学(18)、『方丈記』と『徒然草』(18)、「人新世」時代の文化人類学(20)、世界の中の日本外交(21)、日本文学と和歌(21)、世界文学への招待(22)、人文地理学からみる世界(22)、フィールドワークと民族誌(24)、情報社会と国際ボランティア活動(24)、『枕草子』の世界(24)
	◇社会学に関する科目	社会調査の基礎(19)、情報社会のユニバーサルデザイン(19)、エネルギーと社会(19)、リスク社会の家族変動(20)、家族問題と家族支援(20)、生活環境情報の表現-GIS入門(20)、災害社会学(20)、コミュニティがつなぐ安全・安心(20)、社会と産業の倫理(21)、市民自治の知識と実践(21)、環境と社会(21)、貧困の諸相(23)、現代国際社会と有機農業(23)、サービスサイエンス(23)、SDGs下のアジア産業論(23)、ソーシャルシティ(23)、持続可能な社会と生活(23)、リスクコミュニケーションの探究(23)、都市と地域の社会学(24)、官民の人的資源論(24)、社会学概論(25)、社会科学で綴る伝記(25)
	◇生態学に関する科目	感覚と応答の生物学(23)、生物環境の科学(25)
	◇医学に関する科目	がんを知る(16)、人体の構造と機能(22)、運動と健康(22)、感染症と生体防御(24)、公衆衛生(24)、健康長寿のためのスポーツロジック(24)、リハビリテーション(25)、疾病の成立と回復促進(25)、睡眠と健康(25)、疾病の回復を促進する薬(25)
	◇哲学に関する科目	原初から／への思索(22)、西洋哲学の根源(22)、現代に生きる現象学(23)、哲学・思想を今考える(23)、英米哲学の挑戦(23)、グリーンサポートと死生学(24)、原典で読む日本の思想(24)
	◇教育学に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法(15)、幼児理解の理論及び方法(15)、生涯学習を考える(17)、現代の家庭教育(18)、大学マネジメント論(20)、現代教育入門(21)、乳幼児の保育・教育(21)、道徳教育論(21)、日本の教職論(22)、幼児教育の指導法(22)、新時代の生徒指導(23)、日本の文化と教育(23)、教育の行政・政治・経営(23)、博物館概論(23)、テーマで学ぶ日本教育史(24)、コミュニティと教育(24)、学校と法(24)、情報化社会におけるメディア教育(24)、世界の学校(24)、教育の社会学(25)、教育政策のデザイン(25)
	◇言語学に関する科目	日本語学入門(20)、多文化共生のコミュニケーション(24)、日本語教育学入門(24)、「日本語らしさ」とは何か(25)

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目(面接授業・ライブWeb授業を含む)でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

## 2 「教育学」

「専門・関連科目」の区分	2025年度対応科目
専門科目 ○教育学・教育心理学に関する科目 ○教科教育に関する科目 ○幼児教育・保育に関する科目 ○特別支援教育に関する科目 ○養護教育に関する科目	発達心理学概論(17)、生涯学習を考える(17)、乳幼児・児童の心理臨床(17)、現代の家庭教育(18)、教育・学校心理学(20)、大学マネジメント論(20)、現代教育入門(21)、道徳教育論(21)、日本の教職論(22)、教育のためのICT活用(22)、新時代の生徒指導(23)、日本の文化と教育(23)、教育の行政・政治・経営(23)、テーマで学ぶ日本教育史(24)、コミュニティと教育(24)、心理と教育へのいざない(24)、学校と法(24)、世界の学校(24)、教育の社会学(25)、教育政策のデザイン(25) 教育課程の意義及び編成の方法(15)、幼児理解の理論及び方法(15)、乳幼児の保育・教育(21)、幼児教育の指導法(22) 肢体不自由児の教育(20)、障害者・障害児心理学(21)、特別支援教育基礎論(24)、特別支援教育総論(25)、知的障害教育総論(25)
関連科目 ◇思想・哲学に関する科目	西洋哲学の根源(22)、原初から／への思索(22)、現代に生きる現象学(23)、哲学・思想を今考える(23)、英米哲学の挑戦(23)、グリーンサポートと死生学(24)、原典で読む日本の思想(24)
◇歴史・文化に関する科目	国際理解のために(19)、「人新世」時代の文化人類学(20)、日本の近世(20)、中国と東部ユーラシアの歴史(20)、韓国朝鮮の歴史と文化(21)、日本近現代史(21)、都市から見るヨーロッパ史(21)、日本文学と和歌(21)、歴史のなかの人間(22)、古代中世の日本(23)、樋口一葉の世界(23)、博物館概論(23)、全体主義と新自由主義のあいだ(23)、西アジアの歴史(24)、『枕草子』の世界(24)、アメリカ史：世界史の中で考える(24)、日本政治外交史(25)、西洋政治思想の文脈(25)
◇心理学に関する科目	思春期・青年期の心理臨床(19)、錯覚の科学(20)、心理学研究法(20)、臨床心理学概論(20)、認知行動療法(20)、中高年の心理臨床(20)、社会・集団・家族心理学(20)、感情・人格心理学(21)、心理カウンセリング序説(21)、心理学統計法(21)、神経・生理心理学(22)、精神分析とユング心理学(23)、知覚・認知心理学(23)、進化心理学(23)、より良い思考の技法(23)、心理学概論(24)
◇社会に関する科目	エネルギーと社会(19)、情報社会のユニバーサルデザイン(19)、社会調査の基礎(19)、リスク社会の家族変動(20)、家族問題と家族支援(20)、生活環境情報の表現-GIS入門(20)、災害社会学(20)、コミュニティがつなく安全・安心(20)、産業・組織心理学(20)、社会と産業の倫理(21)、市民自治の知識と実践(21)、環境と社会(21)、世界の中の日本外交(21)、人文地理学からみる世界(22)、現代の国際政治(22)、環境を可視化する技術と応用(23)、住まいの環境論(23)、貧困の諸相(23)、現代国際社会と有機農業(23)、SDGs下のアジア産業論(23)、ソーシャルシティ(23)、持続可能な社会と生活(23)、リスクコミュニケーションの探究(23)、環境と持続可能な経済発展(24)、都市と地域の社会学(24)、社会学概論(25)
◇法律・行政・経営に関する科目	グローバル化時代の日本国憲法(19)、司法・犯罪心理学(20)、刑法と生命(21)、雇用社会と法(21)、心理臨床における法・倫理・制度(21)、簿記入門(22)、政治学入門(22)、空間と政治(22)、現代の内部監査(22)、民法(22)、管理会計(22)、市民生活と裁判(22)、行政法(22)、著作権法(22)、イノベーション・マネジメント(23)、人生100年時代の家族と法(23)、情報と法(23)、経営情報学入門(23)、サービスサイエンス(23)、一般市民のための法学入門(23)、経営学入門(24)、新興アジアの政治と経済(24)、行政学講義(24)、ヨーロッパ政治史(24)、会計学(24)、官民の人的資源論(24)、企業経営の国際展開(25)、国際法(25)、マーケティング(25)
◇情報科学に関する科目	メディアと知的財産(16)、情報ネットワーク(18)、コンピュータとソフトウェア(18)、統計学(19)、情報理論とデジタル表現(19)、情報技術が拓く人間理解(20)、ユーザ調査法(20)、身近なネットワークサービス(20)、アルゴリズムとプログラミング(20)、AIシステムと人・社会との関係(20)、問題解決の数理(21)、情報学へのとびら(22)、コンピュータグラフィックス(22)、デジタル情報の処理と認識(22)、情報セキュリティ概論(22)、日常生活のデジタルメディア(22)、データサイエンス・リテラシ基礎(22)、データサイエンス・リテラシ導入(22)、データサイエンス・リテラシ心得(22)、データベース(23)、情報セキュリティの現状と展望(23)、情報セキュリティの理論と基盤(23)、ヒューマンインタフェース(23)、続・C言語基礎演習(23)、記号論理学(24)、プログラミング入門 Python(24)、身近な統計(24)、社会統計学入門(24)、データ構造の基礎(24)、データの分析と知識発見(24)、情報化社会におけるメディア教育(24)、コンピュータ通信概論(24)、画像処理(24)、生活を支えるコンピュータ技術(25)、初歩からの情報科学(25)、Webのしくみと応用(25)、映像コンテンツの制作技術(25)、遠隔学習のためのパソコン活用(25)、人間・環境情報とDX(25)、表計算プログラミングの活用(25)、ゲーム理論入門(25)
◇医療に関する科目	健康への力の探究(19)、看護学概説(22)、人体の構造と機能(22)、地域在宅看護論(23)、今日のメンタルヘルス(23)、基礎看護学(24)、感染症と生体防御(24)、看護管理と医療安全(24)、公衆衛生(24)、リハビリテーション(25)、老年看護学(25)、疾病の成立と回復促進(25)、疾病の回復を促進する薬(25)
◇福祉に関する科目	ライフステージと社会保障(20)、認知症と生きる(21)、子どもの人権をどうまもるのか(21)、福祉心理学(21)、社会福祉-新しい地平を拓く(22)、社会福祉実践とは何か(22)、地域福祉の課題と展望(22)、社会政策の国際動向と日本の位置(23)、高齢期を支える(23)、地域生活を支える社会福祉と法(24)、障害者の自立と制度(24)、少子化時代の子育て一法と政策(25)
◇芸術に関する科目	舞台芸術の魅力(17)、西洋音楽史(21)、西洋の美学・美術史(24)
◇保健体育に関する科目	運動と健康(22)、健康と社会(23)、食と健康(24)、健康長寿のためのスポーツロジー(24)、睡眠と健康(25)

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目(面接授業・ライブWeb授業を含む)でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

### 3 「経済学」

「専門・関連科目」の区分		2025年度対応科目
専 門 科 目	○経済理論に関する科目	現代経済学(19)、社会経済の基礎(25)
	○経済史に関する科目	日本経済の比較史(24)
	○経済政策・応用経済学に関する科目	財政と現代の経済社会(19)、エネルギーと社会(19)、金融と社会(20)、環境と社会(21)、海からみた産業と日本(22)、SDGs下のアジア産業論(23)、開発経済学:アジア社会の変容(24)、生活経済学(25)
関 連 科 目	○統計学に関する科目	統計学(19)、教育調査の基礎(20)、心理学統計法(21)、身近な統計(24)、社会統計学入門(24)
	◇商学に関する科目	4.「商学」の専門科目に該当する科目が該当(3.「経済学」の専門科目を除く)
	◇経営学に関する科目	5.「経営学」の専門科目に該当する科目が該当(3.「経済学」の専門科目を除く)
	◇法学に関する科目	グローバル化時代の日本国憲法(19)、刑法と生命(21)、雇用社会と法(21)、民法(22)、市民生活と裁判(22)、行政法(22)、著作権法(22)、人生100年時代の家族と法(23)、情報と法(23)、一般市民のための法学入門(23)、学校と法(24)、国際法(25)
	◇政治学に関する科目	世界の中の日本外交(21)、政治学入門(22)、空間と政治(22)、現代の国際政治(22)、全体主義と新自由主義のあいだ(23)、新興アジアの政治と経済(24)、行政学講説(24)、ヨーロッパ政治史(24)、現代アメリカの政治と社会(24)、日本政治外交史(25)、西洋政治思想の文脈(25)
	◇社会学に関する科目	社会調査の基礎(19)、情報社会のユニバーサルデザイン(19)、リスク社会の家族変動(20)、社会・集団・家族心理学(20)、家族問題と家族支援(20)、災害社会学(20)、コミュニティがつなぐ安全・安心(20)、社会と産業の倫理(21)、市民自治の知識と実践(21)、貧困の諸相(23)、現代国際社会と有機農業(23)、ソーシャルシティ(23)、持続可能な社会と生活(23)、リスクコミュニケーションの探究(23)、都市と地域の社会学(24)、コミュニティと教育(24)、情報化社会におけるメディア教育(24)、社会学概論(25)、社会科学で綴る伝記(25)
◇心理学に関する科目	発達心理学概論(17)、乳幼児・児童の心理臨床(17)、思春期・青年期の心理臨床(19)、錯覚の科学(20)、社会・集団・家族心理学(20)、心理学研究法(20)、臨床心理学概論(20)、教育・学校心理学(20)、認知行動療法(20)、中高年の心理臨床(20)、感情・人格心理学(21)、心理カウンセリング序説(21)、神経・生理心理学(22)、精神分析とユング心理学(23)、知覚・認知心理学(23)、今日のメンタルヘルス(23)、進化心理学(23)、より良い思考の技法(23)、心理学概論(24)	

空欄の箇所は、該当科目がありません。

### 4 「商学」

「専門・関連科目」の区分		2025年度対応科目
専 門 科 目	○商学総論に関する科目	
	○金融論に関する科目	金融と社会(20)
	○貿易論に関する科目	
	○交通論に関する科目	
	○マーケティングに関する科目	マーケティング(25)、サプライチェーン・マネジメント(25)
	○会計学に関する科目	現代の内部監査(22)、管理会計(22)、簿記入門(22)、会計学(24)
	○商業史に関する科目	
関 連 科 目	◇経済学に関する科目	ゲーム理論入門(25) 3.「経済学」の専門科目に該当する科目が該当(4.「商学」の専門科目を除く)
	◇経営学に関する科目	5.「経営学」の専門科目に該当する科目が該当(4.「商学」の専門科目を除く)
	◇法学に関する科目	グローバル化時代の日本国憲法(19)、刑法と生命(21)、雇用社会と法(21)、民法(22)、市民生活と裁判(22)、行政法(22)、著作権法(22)、人生100年時代の家族と法(23)、情報と法(23)、一般市民のための法学入門(23)、学校と法(24)、国際法(25)
	◇政治学に関する科目	世界の中の日本外交(21)、政治学入門(22)、空間と政治(22)、現代の国際政治(22)、全体主義と新自由主義のあいだ(23)、新興アジアの政治と経済(24)、行政学講説(24)、ヨーロッパ政治史(24)、現代アメリカの政治と社会(24)、日本政治外交史(25)、西洋政治思想の文脈(25)
	◇社会学に関する科目	社会調査の基礎(19)、情報社会のユニバーサルデザイン(19)、リスク社会の家族変動(20)、社会・集団・家族心理学(20)、家族問題と家族支援(20)、災害社会学(20)、コミュニティがつなぐ安全・安心(20)、社会と産業の倫理(21)、市民自治の知識と実践(21)、貧困の諸相(23)、現代国際社会と有機農業(23)、ソーシャルシティ(23)、持続可能な社会と生活(23)、リスクコミュニケーションの探究(23)、都市と地域の社会学(24)、コミュニティと教育(24)、情報化社会におけるメディア教育(24)、社会学概論(25)、社会科学で綴る伝記(25)
	◇心理学に関する科目	発達心理学概論(17)、乳幼児・児童の心理臨床(17)、思春期・青年期の心理臨床(19)、錯覚の科学(20)、社会・集団・家族心理学(20)、心理学研究法(20)、臨床心理学概論(20)、教育・学校心理学(20)、認知行動療法(20)、中高年の心理臨床(20)、感情・人格心理学(21)、心理カウンセリング序説(21)、心理学統計法(21)、神経・生理心理学(22)、精神分析とユング心理学(23)、知覚・認知心理学(23)、今日のメンタルヘルス(23)、進化心理学(23)、より良い思考の技法(23)、心理学概論(24)
	◇情報論に関する科目	メディアと知的財産(16)、情報ネットワーク(18)、情報理論とデジタル表現(19)、情報技術が拓く人間理解(20)、ユーザ調査法(20)、身近なネットワークサービス(20)、アルゴリズムとプログラミング(20)、AIシステムと人・社会との関係(20)、問題解決の数理(21)、情報学へのとびら(22)、コンピュータグラフィックス(22)、デジタル情報の処理と認識(22)、情報セキュリティ概論(22)、日常生活のデジタルメディア(22)、教育のためのICT活用(22)、データサイエンス・リテラシ基礎(22)、データサイエンス・リテラシ導入(22)、データサイエンス・リテラシ心得(22)、データベース(23)、情報セキュリティの現状と展望(23)、情報セキュリティの理論と基盤(23)、ヒューマンインタフェース(23)、続・C言語基礎演習(23)、記号論理学(24)、プログラミング入門 Python(24)、データ構造の基礎(24)、データの分析と知識発見(24)、コンピュータ通信概論(24)、画像処理(24)、生活を支えるコンピュータ技術(25)、Webのしくみと応用(25)、映像コンテンツの制作技術(25)、遠隔学習のためのパソコン活用(25)、人間・環境情報とDX(25)、表計算プログラミングの活用(25)

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目（面接授業・ライブWeb授業を含む）でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

## 5 「経営学」

「専門・関連科目」の区分	2025年度対応科目
専門科目	○経営学・経営学史に関する科目 イノベーション・マネジメント（'23）、経営学入門（'24）
	○企業論に関する科目 NPO・NGOの世界（'25）
	○経営管理論に関する科目 大学マネジメント論（'20）、ファイナンス入門（'23）、経営情報学入門（'23）、サービスサイエンス（'23）
	○人事管理論に関する科目 官民の人的資源論（'24）、現代のキャリアコンサルティング（'25）
	○国際経営論に関する科目 企業経営の国際展開（'25）
	○経営情報論に関する科目
	○経営史に関する科目
	○会計学に関する科目 簿記入門（'22）、現代の内部監査（'22）、管理会計（'22）、会計学（'24）
	○マーケティングに関する科目 フードシステムと日本農業（'22）、マーケティング（'25）、サプライチェーン・マネジメント（'25）
関連科目	◇経済学に関する科目 3.「経済学」の専門科目に該当する科目が該当（5.「経営学」の専門科目を除く）
	◇商学に関する科目 4.「商学」の専門科目に該当する科目が該当（5.「経営学」の専門科目を除く）
	◇法学に関する科目 グローバル化時代の日本国憲法（'19）、刑法と生命（'21）、雇用社会と法（'21）、民法（'22）、市民生活と裁判（'22）、行政法（'22）、著作権法（'22）、人生100年時代の家族と法（'23）、情報と法（'23）、一般市民のための法学入門（'23）、学校と法（'24）、国際法（'25）
	◇政治学に関する科目 世界の中の日本外交（'21）、政治学入門（'22）、空間と政治（'22）、現代の国際政治（'22）、全体主義と新自由主義のあいだ（'23）、新興アジアの政治と経済（'24）、行政学講説（'24）、ヨーロッパ政治史（'24）、現代アメリカの政治と社会（'24）、日本政治外交史（'25）、西洋政治思想の文脈（'25）
	◇社会学に関する科目 社会調査の基礎（'19）、情報社会のユニバーサルデザイン（'19）、社会・集団・家族心理学（'20）、リスク社会の家族変動（'20）、家族問題と家族支援（'20）、災害社会学（'20）、コミュニティがつなぐ安全・安心（'20）、社会と産業の倫理（'21）、市民自治の知識と実践（'21）、貧困の諸相（'23）、現代国際社会と有機農業（'23）、ソーシャルシティ（'23）、持続可能な社会と生活（'23）、リスクコミュニケーションの探究（'23）、都市と地域の社会学（'24）、コミュニティと教育（'24）、情報化社会におけるメディア教育（'24）、社会学概論（'25）、社会科学で綴る伝記（'25）
	◇心理学に関する科目 発達心理学概論（'17）、乳幼児・児童の心理臨床（'17）、思春期・青年期の心理臨床（'19）、錯覚の科学（'20）、社会・集団・家族心理学（'20）、心理学研究法（'20）、臨床心理学概論（'20）、教育・学校心理学（'20）、認知行動療法（'20）、中高年の心理臨床（'20）、感情・人格心理学（'21）、心理カウンセリング序説（'21）、心理学統計法（'21）、神経・生理心理学（'22）、精神分析とユング心理学（'23）、知覚・認知心理学（'23）、今日のメンタルヘルス（'23）、進化心理学（'23）、より良い思考の技法（'23）、心理学概論（'24）

空欄の箇所は、該当科目がありません。

## 6 「看護学」

「専門・関連科目」の区分	2025年度対応科目
専門科目（A群）	○基礎看護学に関する科目 災害看護学・国際看護学（'20）、看護学概説（'22）、基礎看護学（'24）、看護管理と医療安全（'24）
	○母性看護学に関する科目 母性看護学（'20）
	○小児看護学に関する科目 小児看護学（'22）
	○成人看護学に関する科目 成人看護学（'24）
	○老人看護学に関する科目 老年看護学（'25）
	○精神看護学に関する科目 精神看護学（'25）
	○地域看護学に関する科目 地域・在宅看護論（'23）
（B群）	○看護学に関する実習科目
関連科目	◇医学に関する科目 がんを知る（'16）、精神疾患とその治療（'20）、循環器の健康科学（'20）、人体の構造と機能（'22）、神経・生理心理学（'22）、運動と健康（'22）、今日のメンタルヘルス（'23）、感染症と生体防御（'24）、公衆衛生（'24）、健康長寿のためのスポーツロジー（'24）、リハビリテーション（'25）、疾病の成立と回復促進（'25）、疾病の回復を促進する薬（'25）
	◇保健学に関する科目 健康への力の探究（'19）、認知症と生きる（'21）、健康と社会（'23）、食と健康（'24）、睡眠と健康（'25）、食の安全（'25）
	◇社会福祉学に関する科目 ライフステージと社会保障（'20）、子どもの人権をどうまもるのか（'21）、福祉心理学（'21）、障害者・障害児心理学（'21）、社会福祉-新しい地平を拓く（'22）、地域福祉の課題と展望（'22）、社会福祉実践とは何か（'22）、社会政策の国際動向と日本の位置（'23）、高齢期を支える（'23）、地域生活を支える社会福祉と法（'24）、障害者の自立と制度（'24）、特別支援教育総論（'25）、少子化時代の子育て一法と政策（'25）
	◇医療情報科学に関する科目

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目（面接授業・ライブWeb授業を含む）でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

## 7 「保健衛生学」（検査技術科学）

「専門・関連科目」の区分		2025年度対応科目
専門科目 (A群)	○基礎・臨床医学に関する科目	看護学概説(22)、神経・生理心理学(22)、感染症と生体防御(24)、疾病の成立と回復促進(25)、疾病の回復を促進する薬(25)
	○基礎検査学に関する科目	
	○臨床検査学に関する科目	
	○臨床検査学に関する実習科目	
(B群)	○健康科学に関する科目	がんを知る(16)、健康への力の探究(19)、精神疾患とその治療(20)、循環器の健康科学(20)、運動と健康(22)、今日のメンタルヘルス(23)、食と健康(24)、健康長寿のためのスポーツロジック(24)、睡眠と健康(25)
	○社会医学に関する科目	健康と社会(23)、高齢期を支える(23)、公衆衛生(24)、食の安全(25)
	○統計学・情報科学に関する科目	情報ネットワーク(18)、コンピュータとソフトウェア(18)、統計学(19)、情報理論とデジタル表現(19)、社会調査の基礎(19)、情報技術が拓く人間理解(20)、ユーザ調査法(20)、身近なネットワークサービス(20)、アルゴリズムとプログラミング(20)、教育調査の基礎(20)、AIシステムと人・社会との関係(20)、心理学統計法(21)、問題解決の数理(21)、情報学へのとびら(22)、情報セキュリティ概論(22)、日常生活のデジタルメディア(22)、データサイエンス・リテラシ基礎(22)、データサイエンス・リテラシ導入(22)、データサイエンス・リテラシ心得(22)、教育のためのICT活用(22)、データベース(23)、自然言語処理(23)、情報セキュリティの現状と展望(23)、情報セキュリティの理論と基盤(23)、ヒューマンインタフェース(23)、続・C言語基礎演習(23)、記号論理学(24)、プログラミング入門 Python(24)、身近な統計(24)、社会統計学入門(24)、データ構造の基礎(24)、データの分析と知識発見(24)、情報化社会におけるメディア教育(24)、コンピュータ通信概論(24)、生活を支えるコンピュータ技術(25)、Webのしくみと応用(25)、遠隔学習のためのパソコン活用(25)、人間・環境情報とDX(25)、表計算プログラミングの活用(25)、ゲーム理論入門(25)
関連科目	◇生命科学に関する科目	生物の進化と多様化の科学(17)、生命分子と細胞の科学(19)、植物の科学(21)、暮らしに役立つバイオサイエンス(21)、感覚と応答の生物学(23)、初歩からの生物学(24)、生物環境の科学(25)
	◇理工学に関する科目	物理演習(16)、線型代数学(17)、初歩からの化学(18)、初歩からの数学(18)、量子化学(19)、エネルギーと社会(19)、力と運動の物理(19)、入門線型代数(19)、場と時間空間の物理(20)、エントロピーからはじめる熱力学(20)、量子物理学(21)、正多面体と素数(21)、自然科学はじめの一步(22)、入門微分積分(22)、初歩からの物理(22)、現代を生きるための化学(22)、微分方程式(23)、分子の変化からみた世界(23)、かたちの化学-化学の考え方入門(23)、解析入門(24)、物理の世界(24)、量子物理演習(24)
	◇社会福祉・リハビリテーション論に関する科目	ライフステージと社会保障(20)、子どもの人権をどうまもるのか(21)、福祉心理学(21)、障害者・障害児心理学(21)、社会福祉-新しい地平を拓く(22)、地域福祉の課題と展望(22)、社会福祉実践とは何か(22)、人生100年時代の家族と法(23)、貧困の諸相(23)、社会政策の国際動向と日本の位置(23)、地域生活を支える社会福祉と法(24)、障害者の自立と制度(24)、特別支援教育総論(25)、リハビリテーション(25)、少子化時代の子育て-法と政策(25)

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目(面接授業・ライブWeb授業を含む)でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

## 8 「保健衛生学」(放射線技術科学)

「専門・関連科目」の区分		2025年度対応科目
専門科目 (A群)	○放射線理工学に関する科目	
	○放射線医科学に関する科目	
	○画像医工学に関する科目	
	○放射線・画像技術学に関する科目	
	○放射線管理学に関する科目	
	○放射線技術科学に関する実験・実習科目	
(B群)	○理工学に関する科目 (放射線技術科学分野の基礎となる理工学)	量子化学(19)、量子物理学(21)、量子物理演習(24)
	○基礎・臨床医学に関する科目	看護学概説(22)、人体の構造と機能(22)、神経・生理心理学(22)、地域・在宅看護論(23)、今日のメンタルヘルス(23)、基礎看護学(24)、看護管理と医療安全(24)、感染症と生体防御(24)、疾病の成立と回復促進(25)、疾病の回復を促進する薬(25)
	○社会医学に関する科目	健康と社会(23)、公衆衛生(24)
関連科目	◇健康科学に関する科目	がんを知る(16)、健康への力の探究(19)、精神疾患とその治療(20)、循環器の健康科学(20)、運動と健康(22)、食と健康(24)、健康長寿のためのスポーツロジー(24)、睡眠と健康(25)、食の安全(25)
	◇人間発達・心理学に関する科目	乳幼児・児童の心理臨床(17)、発達心理学概論(17)、思春期・青年期の心理臨床(19)、教育・学校心理学(20)、社会・集団・家族心理学(20)、心理学研究法(20)、臨床心理学概論(20)、認知行動療法(20)、中高年の心理臨床(20)、感情・人格心理学(21)、心理カウンセリング序説(21)、精神分析とユング心理学(23)、知覚・認知心理学(23)、進化心理学(23)、より良い思考の技法(23)、心理学概論(24)、心理と教育へのいざない(24)、知的障害教育総論(25)
	◇統計学・情報科学に関する科目	コンピュータとソフトウェア(18)、情報ネットワーク(18)、社会調査の基礎(19)、統計学(19)、情報理論とデジタル表現(19)、情報技術が拓く人間理解(20)、ユーザ調査法(20)、身近なネットワークサービス(20)、アルゴリズムとプログラミング(20)、教育調査の基礎(20)、AIシステムと人・社会との関係(20)、心理学統計法(21)、問題解決の数理(21)、情報学へのとびら(22)、情報セキュリティ概論(22)、教育のためのICT活用(22)、データサイエンス・リテラシ基礎(22)、データサイエンス・リテラシ導入(22)、データサイエンス・リテラシ心得(22)、データベース(23)、自然言語処理(23)、情報セキュリティの現状と展望(23)、情報セキュリティの理論と基盤(23)、ヒューマンインタフェース(23)、続・C言語基礎演習(23)、プログラミング入門 Python(24)、身近な統計(24)、社会統計学入門(24)、データ構造の基礎(24)、データの分析と知識発見(24)、コンピュータ通信概論(24)、生活を支えるコンピュータ技術(25)、Webのしくみと応用(25)、人間・環境情報とDX(25)、表計算プログラミングの活用(25)、ゲーム理論入門(25)
	◇社会福祉・リハビリテーション論に関する科目	ライフステージと社会保障(20)、子どもの人権をどうまもるのか(21)、福祉心理学(21)、障害者・障害児心理学(21)、社会福祉-新しい地平を拓く(22)、地域福祉の課題と展望(22)、社会福祉実践とは何か(22)、人生100年時代の家族と法(23)、社会政策の国際動向と日本の位置(23)、高齢期を支える(23)、地域生活を支える社会福祉と法(24)、障害者の自立と制度(24)、リハビリテーション(25)、少子化時代の子育て一法と政策(25)

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目（面接授業・ライブWeb授業を含む）でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

## 9「保健衛生学」（理学療法学）、10「保健衛生学」（作業療法学）

「専門・関連科目」の区分		2025年度対応科目
専門科目 (A群) (B群)	○基礎・研究理学療法学に関する科目	力と運動の物理(19)
	○心身機能診断学に関する科目	
	○臨床理学療法学に関する科目	
	○物理療法学に関する科目	
	○日常生活活動学に関する科目	
	○理学療法学に関する臨床実習科目	
	○作業療法概論に関する科目	
	○作業治療学に関する科目	
	○心身機能評価学に関する科目	
	○臨床作業療法学に関する科目	
	○日常生活活動・職能指導に関する科目	
	○作業療法学に関する臨床実習科目	
(C群)	○基礎・臨床医学に関する科目	肢体不自由児の教育(20)、認知行動療法(20)、中高年の心理臨床(20)、精神疾患とその治療(20)、循環器の健康科学(20)、人体の構造と機能(22)、神経・生理心理学(22)、今日のメンタルヘルス(23)、看護管理と医療安全(24)、感染症と生体防御(24)、公衆衛生(24)、リハビリテーション(25)、疾病の成立と回復促進(25)、疾病の回復を促進する薬(25)
	○社会福祉・リハビリテーション論に関する科目	現代の家庭教育(18)、ライフステージと社会保障(20)、子どもの人権をどうまもるのか(21)、福祉心理学(21)、障害者・障害児心理学(21)、社会福祉-新しい地平を拓く(22)、地域福祉の課題と展望(22)、社会福祉実践とは何か(22)、人生100年時代の家族と法(23)、貧困の諸相(23)、社会政策の国際動向と日本の位置(23)、高齢期を支える(23)、地域生活を支える社会福祉と法(24)、障害者の自立と制度(24)、特別支援教育総論(25)、少子化時代の子育て-法と政策(25)
	○健康科学に関する科目	運動と健康(22)、食と健康(24)、健康長寿のためのスポーツロジック(24)、睡眠と健康(25)、食の安全(25)
関連科目	◇人間発達・心理学に関する科目	乳幼児・児童の心理臨床(17)、発達心理学概論(17)、思春期・青年期の心理臨床(19)、教育・学校心理学(20)、社会・集団・家族心理学(20)、心理学研究法(20)、臨床心理学概論(20)、錯覚の科学(20)、感情・人格心理学(21)、心理カウンセリング序説(21)、精神分析とユング心理学(23)、知覚・認知心理学(23)、進化心理学(23)、より良い思考の技法(23)、心理学概論(24)、心理と教育へのいざない(24)、知的障害教育総論(25)
	◇統計学・情報科学に関する科目	メディアと知的財産(16)、コンピュータとソフトウェア(18)、情報ネットワーク(18)、社会調査の基礎(19)、統計学(19)、情報理論とデジタル表現(19)、情報技術が拓く人間理解(20)、ユーザ調査法(20)、身近なネットワークサービス(20)、アルゴリズムとプログラミング(20)、教育調査の基礎(20)、AIシステムと人・社会との関係(20)、心理学統計法(21)、問題解決の数理(21)、情報学へのとびら(22)、情報セキュリティ概論(22)、日常生活のデジタルメディア(22)、教育のためのICT活用(22)、データサイエンス・リテラシ基礎(22)、データサイエンス・リテラシ導入(22)、データサイエンス・リテラシ心得(22)、データベース(23)、情報セキュリティの現状と展望(23)、情報セキュリティの理論と基盤(23)、ヒューマンインタフェース(23)、続・C言語基礎演習(23)、記号論理学(24)、プログラミング入門 Python(24)、身近な統計(24)、社会統計学入門(24)、データ構造の基礎(24)、データの分析と知識発見(24)、情報化社会におけるメディア教育(24)、コンピュータ通信概論(24)、画像処理(24)、生活を支えるコンピュータ技術(25)、Webのしくみと応用(25)、遠隔学習のためのパソコン活用(25)、人間・環境情報とDX(25)、表計算プログラミングの活用(25)、ゲーム理論入門(25)

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目(面接授業・ライブWeb授業を含む)でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

## 11 「鍼灸学」

「専門・関連科目」の区分		2025年度対応科目
専門科目 (A群)	○経絡経穴学に関する科目	
	○鍼灸の理論に関する科目	
	○東洋医学に関する概論的な科目	
	○鍼灸基礎実習に関する科目	
	○鍼灸臨床・実習に関する科目	
	○基礎・臨床医学に関する科目	看護学概説(22)、神経・生理心理学(22)、感染症と生体防御(24)、公衆衛生(24)、リハビリテーション(25)、疾病の成立と回復促進(25)、疾病の回復を促進する薬(25)
(B群)	○社会福祉に関する科目	ライフステージと社会保障(20)、肢体不自由児の教育(20)、子どもの人権をどうまもるのか(21)、福祉心理学(21)、社会福祉-新しい地平を拓く(22)、地域福祉の課題と展望(22)、社会福祉実践とは何か(22)、人生100年時代の家族と法(23)、貧困の諸相(23)、社会政策の国際動向と日本の位置(23)、高齢期を支える(23)、地域生活を支える社会福祉と法(24)、障害者の自立と制度(24)、知的障害教育総論(25)、少子化時代の子育て一法と政策(25)
	○医用工学に関する科目	
	○健康科学・スポーツ科学に関する科目	精神疾患とその治療(20)、循環器の健康科学(20)、運動と健康(22)、健康と社会(23)、今日のメンタルヘルス(23)、食と健康(24)、健康長寿のためのスポーツロジー(24)、睡眠と健康(25)
	○心理学に関する科目	発達心理学概論(17)、乳幼児・児童の心理臨床(17)、思春期・青年期の心理臨床(19)、錯覚の科学(20)、社会・集団・家族心理学(20)、心理学研究法(20)、臨床心理学概論(20)、教育・学校心理学(20)、認知行動療法(20)、中高年の心理臨床(20)、感情・人格心理学(21)、心理カウンセリング序説(21)、障害者・障害児心理学(21)、精神分析とユング心理学(23)、知覚・認知心理学(23)、進化心理学(23)、より良い思考の技法(23)、心理と教育へのいざない(24)、心理学概論(24)
関連科目	◇人類学・文化人類学に関する科目	総合人類学としてのヒト学(18)、「人新世」時代の文化人類学(20)、フィールドワークと民族誌(24)、レジリエンスの科学(24)
	◇医療社会学に関する科目	がんを知る(16)、がんとともに生きる(18)
	◇医史学に関する科目	
	◇倫理学に関する科目	共生のための技術者倫理(24)、グリーフサポートと死生学(24)
	◇東洋思想に関する科目	原典で読む日本の思想(24)
	◇情報科学に関する科目	情報ネットワーク(18)、コンピュータとソフトウェア(18)、社会調査の基礎(19)、統計学(19)、情報技術が拓く人間理解(20)、ユーザ調査法(20)、身近なネットワークサービス(20)、アルゴリズムとプログラミング(20)、AIシステムと人・社会との関係(20)、問題解決の数理(21)、心理学統計法(21)、情報学へのとびら(22)、情報セキュリティ概論(22)、日常生活のデジタルメディア(22)、教育のためのICT活用(22)、データサイエンス・リテラシ基礎(22)、データサイエンス・リテラシ導入(22)、データサイエンス・リテラシ心得(22)、情報セキュリティの現状と展望(23)、情報セキュリティの理論と基盤(23)、ヒューマンインタフェース(23)、続・C言語基礎演習(23)、情報と法(23)、プログラミング入門Python(24)、身近な統計(24)、社会統計学入門(24)、データの分析と知識発見(24)、情報化社会におけるメディア教育(24)、コンピュータ通信概論(24)、画像処理(24)、Webのしくみと応用(25)、遠隔学習のためのパソコン活用(25)、人間・環境情報とDX(25)、表計算プログラミングの活用(25)、ゲーム理論入門(25)
	◇統合医療・補完代替医療に関する科目	

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目(面接授業・ライブWeb授業を含む)でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

## 12 「口腔保健学」(口腔保健衛生学)

「専門・関連科目」の区分		2025年度対応科目
専門科目 (A群)	○口腔保健衛生学概論に関する科目	
	○臨床歯科医学に関する科目	
	○基礎歯科医学に関する科目	
	○口腔疾患予防学に関する科目	
	○口腔保健指導に関する科目	
	○歯科診療補助に関する科目	
(B群)	○口腔保健衛生学に関する実習科目	
関連科目	◇医学・歯学・薬学に関する科目	がんを知る('16)、認知行動療法('20)、人体の構造と機能('22)、神経・生理心理学('22)、運動と健康('22)、今日のメンタルヘルス('23)、感染症と生体防御('24)、公衆衛生('24)、健康長寿のためのスポーツロジック('24)、リハビリテーション('25)、疾病の成立と回復促進('25)、疾病の回復を促進する薬('25)
	◇保健学に関する科目	健康への力の探究('19)、精神疾患とその治療('20)、循環器の健康科学('20)、健康と社会('23)、食と健康('24)、睡眠と健康('25)、食の安全('25)
	◇看護学に関する科目	災害看護学・国際看護学('20)、母性看護学('20)、看護学概説('22)、小児看護学('22)、地域・在宅看護論('23)、基礎看護学('24)、看護管理と医療安全('24)、成人看護学('24)、老年看護学('25)、精神看護学('25)
	◇社会福祉学に関する科目	ライフステージと社会保障('20)、認知症と生きる('21)、子どもの人権をどうまもるのか('21)、福祉心理学('21)、障害者・障害児心理学('21)、社会福祉-新しい地平を拓く('22)、地域福祉の課題と展望('22)、社会福祉実践とは何か('22)、人生100年時代の家族と法('23)、社会政策の国際動向と日本の位置('23)、高齢期を支える('23)、地域生活を支える社会福祉と法('24)、障害者の自立と制度('24)、特別支援教育総論('25)、少子化時代の子育て一法と政策('25)
	◇医療情報科学に関する科目	

空欄の箇所は、該当科目がありません。

## 13 「口腔保健学」(口腔保健技工学)

「専門・関連科目」の区分		2025年度対応科目
専門科目 (A群)	○口腔保健技工学概論に関する科目	
	○歯科技工学に関する科目	
	○臨床歯科医学に関する科目	
	○基礎歯科医学に関する科目	
	○歯科理工学に関する科目	
	○歯の解剖学に関する科目	
(B群)	○口腔保健技工学に関する実習科目	
関連科目	◇歯学・医学に関する科目	がんを知る('16)、認知行動療法('20)、人体の構造と機能('22)、神経・生理心理学('22)、運動と健康('22)、今日のメンタルヘルス('23)、感染症と生体防御('24)、公衆衛生('24)、健康長寿のためのスポーツロジック('24)、リハビリテーション('25)、疾病の成立と回復促進('25)、疾病の回復を促進する薬('25)
	◇工学に関する科目	
	◇保健学に関する科目	健康への力の探究('19)、精神疾患とその治療('20)、循環器の健康科学('20)、健康と社会('23)、食と健康('24)、睡眠と健康('25)、食の安全('25)
	◇社会福祉学に関する科目	ライフステージと社会保障('20)、認知症と生きる('21)、子どもの人権をどうまもるのか('21)、福祉心理学('21)、障害者・障害児心理学('21)、社会福祉-新しい地平を拓く('22)、地域福祉の課題と展望('22)、社会福祉実践とは何か('22)、人生100年時代の家族と法('23)、社会政策の国際動向と日本の位置('23)、高齢期を支える('23)、地域生活を支える社会福祉と法('24)、障害者の自立と制度('24)、特別支援教育総論('25)、少子化時代の子育て一法と政策('25)
	◇医療情報科学に関する科目	

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目（面接授業・ライブWeb授業を含む）でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

#### 14 「柔道整復学」

「専門・関連科目」の区分		2025年度対応科目
専門科目 (A群)	○柔道整復学に関する基礎的な科目	
	○臨床柔道整復学に関する科目	
	○柔道整復学に関する臨床実習科目	
(B群)	○生体・生理学に関する科目	人体の構造と機能('22)、運動と健康('22)、睡眠と健康('25)、疾病の成立と回復促進('25)、疾病の回復を促進する薬('25)
	○保健医療に関する科目	乳幼児・児童の心理臨床('17)、臨床心理学概論('20)、精神疾患とその治療('20)、循環器の健康科学('20)、知覚・認知心理学('23)、感染症と生体防御('24)、健康長寿のためのスポーツロジー('24)、リハビリテーション('25)
	○健康科学に関する科目	がんを知る('16)、健康への力の探究('19)、今日のメンタルヘルス('23)、食と健康('24)、公衆衛生('24)
	○柔道に関する実技科目	
関連科目	◇体育学に関する科目	
	◇倫理学に関する科目	情報と法('23)、共生のための技術者倫理('24)、グリーフサポートと死生学('24)
	◇人間発達・心理学に関する科目	発達心理学概論('17)、現代の家庭教育('18)、思春期・青年期の心理臨床('19)、教育・学校心理学('20)、社会・集団・家族心理学('20)、錯覚の科学('20)、心理学研究法('20)、ユーザ調査法('20)、感情・人格心理学('21)、心理カウンセリング序説('21)、進化心理学('23)、より良い思考の技法('23)、精神分析とユング心理学('23)、心理学概論('24)、心理と教育へのいざない('24)、データの分析と知識発見('24)
	◇社会福祉に関する科目	ライフステージと社会保障('20)、肢体不自由児の教育('20)、子どもの人権をどうまもるのか('21)、福祉心理学('21)、障害者・障害児心理学('21)、社会福祉-新しい地平を拓く('22)、地域福祉の課題と展望('22)、社会福祉実践とは何か('22)、人生100年時代の家族と法('23)、貧困の諸相('23)、社会政策の国際動向と日本の位置('23)、高齢期を支える('23)、地域生活を支える社会福祉と法('24)、障害者の自立と制度('24)、知的障害教育総論('25)、少子化時代の子育て一法と政策('25)
	◇統合医療・補完代替医療に関する科目	

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目（面接授業・ライブWeb授業を含む）でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

## 15 「栄養学」

「専門・関連科目」の区分		2025年度対応科目
専門科目 (A群)	○栄養に関する総合的な科目	
	○人体の仕組みに関する科目	人体の構造と機能('22)
	○食物に関する科目	食と健康('24)
	○調理に関する科目	
	○臨床栄養に関する科目	
	○公衆栄養に関する科目	
	○保健衛生に関する科目	公衆衛生('24)、食の安全('25)
	○栄養指導・栄養教育に関する科目	
(B群)	○栄養に関する演習・実験・実習科目	
関連科目	◇食生態学に関する科目	
	◇健康科学に関する科目	がんを知る('16)、健康への力の探究('19)、精神疾患とその治療('20)、循環器の健康科学('20)、運動と健康('22)、健康と社会('23)、今日のメンタルヘルス('23)、健康長寿のためのスポーツロジック('24)、睡眠と健康('25)
	◇生命科学に関する科目	生物の進化と多様化の科学('17)、生命分子と細胞の科学('19)、植物の科学('21)、暮らしに役立つバイオサイエンス('21)、感覚と応答の生物学('23)、進化心理学('23)、生物環境の科学('25)
	◇環境科学に関する科目	エネルギーと社会('19)、環境と社会('21)、緑地環境の計画('21)、環境を可視化する技術と応用('23)、ジオストーリー('25)、地球と環境の探究('25)
	◇社会福祉に関する科目	ライフステージと社会保障('20)、肢体不自由児の教育('20)、子どもの人権をどうまもるのか('21)、福祉心理学('21)、障害者・障害児心理学('21)、社会福祉-新しい地平を拓く('22)、地域福祉の課題と展望('22)、社会福祉実践とは何か('22)、人生100年時代の家族と法('23)、貧困の諸相('23)、社会政策の国際動向と日本の位置('23)、高齢期を支える('23)、地域生活を支える社会福祉と法('24)、障害者の自立と制度('24)、知的障害教育総論('25)、少子化時代の子育て-法と政策('25)
	◇人間生活に関する科目	メディアと知的財産('16)、現代の家庭教育('18)、家族問題と家族支援('20)、認知症と生きる('21)、ソーシャルシティ('23)、持続可能な社会と生活('23)、リスクコミュニケーションの探究('23)、都市と地域の社会学('24)、生活経済学('25)
	◇食品流通に関する科目	フードシステムと日本農業('22)、現代国際社会と有機農業('23)
◇情報科学に関する科目	情報ネットワーク('18)、コンピュータとソフトウェア('18)、社会調査の基礎('19)、統計学('19)、情報技術が拓く人間理解('20)、ユーザ調査法('20)、身近なネットワークサービス('20)、アルゴリズムとプログラミング('20)、AIシステムと人・社会との関係('20)、問題解決の数理('21)、情報学へのとびら('22)、情報セキュリティ概論('22)、日常生活のデジタルメディア('22)、教育のためのICT活用('22)、データサイエンス・リテラシ基礎('22)、データサイエンス・リテラシ導入('22)、データサイエンス・リテラシ心得('22)、情報セキュリティの現状と展望('23)、情報セキュリティの理論と基盤('23)、ヒューマンインタフェース('23)、続・C言語基礎演習('23)、プログラミング入門 Python('24)、身近な統計('24)、社会統計学入門('24)、データの分析と知識発見('24)、情報化社会におけるメディア教育('24)、コンピュータ通信概論('24)、画像処理('24)、Webのしくみと応用('25)、映像コンテンツの制作技術('25)、遠隔学習のためのパソコン活用('25)、人間・環境情報とDX('25)、表計算プログラミングの活用('25)、ゲーム理論入門('25)	

空欄の箇所は、該当科目がありません。

この表に記載されていない科目(面接授業・ライブWeb授業を含む)でも、専攻に係る単位として認定される場合があります。

## 16「芸術学」(美術)

「専門・関連科目」の区分		2025年度対応科目
専門科目	○美術制作に関する科目	
	○美術理論・美術史に関する科目	西洋の美学・美術史(24)、これからの住まいと建築(25)、映画芸術への招待(25)
	○美術教育・アートマネジメントに関する科目	博物館教育論(22)、博物館概論(23)、博物館経営論(23)、博物館展示論(25)、博物館資料論(25)、博物館情報・メディア論(25)、博物館資料保存論(25)
関連科目	◇文学に関する科目	『方丈記』と『徒然草』(18)、世界文学の古典を読む(20)、日本文学と和歌(21)、世界文学への招待(22)、樋口一葉の世界(23)、『枕草子』の世界(24)
	◇文化史に関する科目	都市から見るヨーロッパ史(21)、西アジアの歴史(24)
	◇哲学に関する科目	西洋哲学の根源(22)、原初から／への思索(22)、現代に生きる現象学(23)、哲学・思想を今考える(23)、英米哲学の挑戦(23)、より良い思考の技法(23)、記号論理学(24)、グリーンサポートと死生学(24)、原典で読む日本の思想(24)
	◇外国語に関する科目	教養で読む英語(19)、看護・医療の英語(19)、英語で読む大統領演説(20)、英語で「道」を語る(21)、グローバル時代の英語(22)、初歩のロシア語(22)、中国語Ⅰ(23)、中国語Ⅱ(23)、ドイツ語Ⅰ(23)、ドイツ語Ⅱ(23)、フランス語Ⅰ(24)、フランス語Ⅱ(24)、韓国語Ⅰ(25)、韓国語Ⅱ(25)、シン・ビートルズ de 英文法(25)、初歩のスペイン語(25)
	◇民族学に関する科目	「人新世」時代の文化人類学(20)、フィールドワークと民族誌(24)
	◇社会学に関する科目	社会調査の基礎(19)、情報社会のユニバーサルデザイン(19)、エネルギーと社会(19)、リスク社会の家族変動(20)、家族問題と家族支援(20)、生活環境情報の表現-GIS入門(20)、災害社会学(20)、コミュニティがつなぐ安全・安心(20)、社会と産業の倫理(21)、市民自治の知識と実践(21)、環境と社会(21)、環境を可視化する技術と応用(23)、貧困の諸相(23)、現代国際社会と有機農業(23)、サービスサイエンス(23)、SDGs下のアジア産業論(23)、ソーシャルシティ(23)、持続可能な社会と生活(23)、リスクコミュニケーションの探究(23)、都市と地域の社会学(24)、官民の人的資源論(24)、社会学概論(25)、社会科学で綴る伝記(25)
	◇情報科学に関する科目	メディアと知的財産(16)、コンピュータとソフトウェア(18)、情報ネットワーク(18)、統計学(19)、情報理論とデジタル表現(19)、情報技術が拓く人間理解(20)、ユーザ調査法(20)、身近なネットワークサービス(20)、アルゴリズムとプログラミング(20)、AIシステムと人・社会との関係(20)、問題解決の数理(21)、情報学へのとびら(22)、コンピュータグラフィックス(22)、デジタル情報の処理と認識(22)、情報セキュリティ概論(22)、日常生活のデジタルメディア(22)、教育のためのICT活用(22)、データサイエンス・リテラシ基礎(22)、データサイエンス・リテラシ導入(22)、データサイエンス・リテラシ心得(22)、データベース(23)、情報セキュリティの現状と展望(23)、情報セキュリティの理論と基盤(23)、ヒューマンインタフェース(23)、続・C言語基礎演習(23)、プログラミング入門 Python(24)、身近な統計(24)、社会統計学入門(24)、データ構造の基礎(24)、データの分析と知識発見(24)、コンピュータ通信概論(24)、画像処理(24)、生活を支えるコンピュータ技術(25)、初歩からの情報科学(25)、Webのしくみと応用(25)、映像コンテンツの制作技術(25)、遠隔学習のためのパソコン活用(25)、人間・環境情報とDX(25)、表計算プログラミングの活用(25)
	◇心理学に関する科目	乳幼児・児童の心理臨床(17)、発達心理学概論(17)、思春期・青年期の心理臨床(19)、錯覚の科学(20)、社会・集団・家族心理学(20)、心理学研究法(20)、臨床心理学概論(20)、教育・学校心理学(20)、認知行動療法(20)、中高年の心理臨床(20)、感情・人格心理学(21)、心理カウンセリング序説(21)、心理学統計法(21)、神経・生理心理学(22)、精神分析とユング心理学(23)、知覚・認知心理学(23)、今日のメンタルヘルス(23)、進化心理学(23)、心理学概論(24)
	◇言語学に関する科目	日本語学入門(20)、日本語リテラシー(21)、多文化共生のコミュニケーション(24)、日本語教育学入門(24)、「日本語らしさ」とは何か(25)
	◇演劇学に関する科目	舞台芸術の魅力(17)
	◇教育学に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法(15)、幼児理解の理論及び方法(15)、生涯学習を考える(17)、現代の家庭教育(18)、大学マネジメント論(20)、現代教育入門(21)、乳幼児の保育・教育(21)、道徳教育論(21)、日本の教職論(22)、幼児教育の指導法(22)、新時代の生徒指導(23)、日本の文化と教育(23)、教育の行政・政治・経営(23)、テーマで学ぶ日本教育史(24)、コミュニティと教育(24)、心理と教育へのいざない(24)、学校と法(24)、情報化社会におけるメディア教育(24)、世界の学校(24)、教育の社会学(25)、教育政策のデザイン(25)
	◇生態学に関する科目	植物の科学(21)、感覚と応答の生物学(23)、生物環境の科学(25)
	◇音楽に関する科目	西洋音楽史(21)

空欄の箇所は、該当科目がありません。

# Q & A

## Q 1 学士の申請をしたいと考えています。放送大学をどのように利用できますか？

A 1 「積み上げ単位」の修得にご利用いただけます。「学修成果」や「試験」等、制度の詳細については、機構が発行している「新しい学士への途」をよくお読みになって、ご不明な点は機構にお問い合わせください。

## Q 2 放送大学ではどのような科目を開設していますか？

A 2 幅広い学問分野にわたる約300科目の授業をBS放送・インターネットを利用して開設しています。科目の内容については、本学のウェブサイトではシラバスを公開しています。また、学生募集要項に同封している「授業科目案内」をご覧ください。

放送大学ウェブサイト <https://www.ouj.ac.jp>  
「トップページ」→「授業科目案内」→「大学」

## Q 3 「学士」の申請に利用するには、どの科目を履修すればいいのですか？

A 3 申請者自身が「新しい学士への途」で申請要件や単位修得状況等を確認のうえ、どのような科目の単位が必要となるかを判断して、履修してください。その際、この冊子の「対応科目一覧」(P. 4～)をぜひ活用してください。

## Q 4 対応科目の履修について、履修相談はできますか？

A 4 申請される方それぞれで要件が異なるため、放送大学では個人の履修相談は受け付けておりません。また、機構でも個別の履修相談には応じていません。

※機構では、体系的な履修がなされているかどうかを審査するため、どの科目をどの区分の対応科目とするのかを含めて審査を行っています。十分に吟味のうえ、履修する科目を選択してください。

## Q 5 短大卒ですが、放送大学に編入学すれば「学士」が得られますか？

A 5 放送大学に編入学して、卒業されると「学士(教養)」の学位が得られます。「学士(教養)」以外の学士を目指す方は、機構の学位授与制度を利用することになります。なお、放送大学に全科履修生として在学している間は、機構に「学士」取得の申請をする資格がありませんので、ご注意ください。(本学卒業後、または退学後に申請することが可能です。)

## Q 6 学生種がよくわかりません。どの学生種で入学すればいいですか？

A 6 放送大学には、学生種が3つあります。入学料と在学期間が異なりますので、目的に合わせて検討してください。

例えば……

①必要な単位はあとわずか。早く申請したい。

➡ **科目履修生** 半年間(1学期間)在学する学生です。

②申請の目的はついてはいるが、まだ少し単位が必要。

➡ **選科履修生** 1年間(2学期間)在学する学生です。

③じっくりと学習したい。色々勉強して、将来申請をしたい。

➡ **全科履修生** 最長で10年間在学することのできる学生です。

本学在学中は機構に「学士」取得の申請をすることはできませんが、本学卒業後、または退学後に申請することが可能です。

## Q 7 費用について教えてください。

A 7 費用は、入学料と単位あたりの授業料で計算できます。

学生種		入学料	授業料 1学期（6か月間）				
科目履修生		7,000円	放送授業	1科目	（2単位）	12,000円	（教材費込み）
選科履修生		9,000円	面接授業	1科目	（1単位）	6,000円	（教材費等別）
全科履修生		24,000円	オンライン授業及び ライブWeb授業	1科目	（1単位）	6,000円	（教材は、インターネット で提供）
					（2単位）	12,000円	

## Q 8 「対応科目一覧」に記載されていない科目は、「専攻に係る単位以外の単位」ですか？

A 8 そうとは限りません。最終的な判断は機構の専門委員会において行われるため、「対応科目一覧」に記載されていない科目も、専攻に係る単位として認定される場合もあります。

## Q 9 放送大学の面接授業で修得した単位がありますが、「積み上げ単位」になりますか？

A 9 面接授業で修得した単位（1科目1単位）も「積み上げ単位」として認定される場合がありますが、最終的な判断は機構の専門委員会において行われます。

※面接授業は人数や開講時間・場所などに制約があります。面接授業の受講についての詳細は、本学ウェブサイト、または、入学後に配付する「学生生活の葉」をご覧ください。

## Q10 「対応科目一覧」に掲載していない学士を申請したいのですが、放送大学の科目は対応していないのですか？

A10 ご自身で判断していただくことになります。  
なお、本冊子に掲載している「対応科目一覧」も、放送大学で参考として作成しているものです。

## Q11 かなり前に放送大学で修得した単位がありますが、申請に利用出来ますか？

A11 「基礎資格を有する者」に該当した後に修得した単位であれば、いつ修得した単位でも申請に利用できます。「基礎資格を有する者」に該当する前に修得した単位については、機構にお問い合わせください。どの科目区分に該当するかは、必ず申請年度の「新しい学士への途」を参照して判断してください。

## Q12 放送大学で修得した単位が、機構が発行している「新しい学士への途」では、「専攻に係る授業科目の区分」のどれにあたるのかわかりません。

A12 「新しい学士への途」の専攻の区分に載っている「専門科目の例」を参考に、ご自身で判断してください。

※履修した内容については、機構が申請を受理した後、専門委員会で審査が行われます。そのため、機構でも個別の履修相談には応じていません。

## Q13 機構への申請に必要な単位修得証明書は、どこで発行してもらえますか？

A13 成績・単位修得証明書は学習センターで発行します。所属に関係なく、全国どこの学習センターでも発行できます。なお、単位修得状況一覧（単位認定書）は、機構への申請に使用できませんので、ご注意ください。

※証明書の申請についての詳細は、本学ウェブサイト、または、入学後に配付する「学生生活の葉」をご覧ください。なお、証明書を発行するシステムの関係上、発行までに若干時間がかかる場合があります。発行の申し込みは余裕をもって行ってください。

**Q14****必要な積み上げ単位は、全て放送大学だけで修得できるのですか？****A14**

放送大学では約300科目を開設していますが、全ての科目を網羅している訳ではありません。目指される学士の種類や、申請される方によって必要となる積み上げ単位の内容が異なりますので、必ず申請年度の「新しい学士への途」で確認してください。

その上で、放送大学だけでは単位数が不足する場合には、他の大学で履修する必要があります。

**Q15****放送大学の「対応科目一覧」にない区分の科目は、どうすればいいですか？****A15**

他大学での履修をお願いします。

※全国の大学では、その大学で授与される学位の種類をウェブサイト等で公表しています。ご希望の学位が取得できる大学に、科目の履修についてお問い合わせください。

**Q16****「新しい学士への途」はどこで入手できますか？****A16**

機構ウェブサイトからテレメールを利用して資料請求できます。

URL [https://www.niad.ac.jp/n\\_gakui/application/shinseishiryoku.html](https://www.niad.ac.jp/n_gakui/application/shinseishiryoku.html)

(トップページ→「学位の授与」→「学位授与申請・試験に関するお知らせ、申請案内等」

→「申請案内書「新しい学士への途」、「学位授与申請書類」等」ページ下部)

資料請求画面はこちら



請求方法についてのお問い合わせ

テレメールカスタマーセンター 電話 050-8601-0102 (9:30 ~ 18:00)

### <参考> 科目群履修認証制度 (放送大学エキスパート)

2006年度より科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)を実施しています。これは、本学が指定する特定の授業科目群を履修することにより、ある分野に目的・関心を持ち、そのための学習を体系的に行ったことを証明する制度です。

2007年に改正された学校教育法では、新たに「履修証明制度」が規定され、2008年4月から、放送大学エキスパートはこの制度に対応しています。

プランごとに指定された認証取得条件(プランごとに異なる)を満たされた方には、申請により「認証状」、「科目群履修証明書」、希望者には「放送大学科目群履修認証カード」を交付します。

詳細は、学習センターなどで配布しているパンフレット『科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)について～認証取得の手引き～』、または本学ウェブサイトをご覧ください。

なお、本制度は放送大学の卒業要件ではありませんので、必ず取得しなくてはならないものではありません。







2025年度

放送大学を利用して大学改革支援・学位授与機構で学士の学位取得をめざす方へ

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11

電話番号 043-276-5111 (総合受付)

平日：9時15分～17時30分 / 土曜：9時15分～13時、14時～17時30分

※日曜、祝日、年末年始(12/29～1/3)を除く

※音声ガイダンスに従って番号を選択してください。学生サポートセンターにつながります。

放送大学・大学院の学生は①を、入学前の方は②を選んでください。

E-mail : r-shikaku@ouj.ac.jp